

産業廃棄物処理計画書

2023年 6月 15日

都道府県知事
大野 元裕

殿

提出者

住 所 東京都中央区新川1-17-22

氏 名 松井建設(株)東京支店

常務執行役員支店長 金子勇

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 03-3553-1172

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	松井建設(株)東京支店
事業場の所在地	東京都中央区新川1-17-22
計画期間	2023/4/1 ~ 2024/3/31
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	建設業 総合工事業
②事業の規模	45,000百万円
③従業員数	350人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	・汚泥⇒脱水⇒改良土、流動化処理土として利用 ・廃プラスチック⇒破砕⇒リサイクル売却 ・金属屑⇒破砕⇒リサイクル売却 ・がれき類⇒破砕⇒再生砕石として利用 ・ガラス陶磁器⇒破砕⇒人工石材、ガラスにリサイクル ・木屑⇒破砕⇒チップとして再生利用 ・紙屑⇒破砕圧縮梱包⇒リサイクル売却 ・繊維屑⇒破砕圧縮梱包⇒燃料として売却 ・石膏ボード⇒破砕⇒セメント材料、地盤改良材として利用 ・アスコン⇒破砕、熱処理⇒アスファルト合材としてリサイクル

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
<p>(管理体制図) 担当専務 ⇒ 経営会議 ⇒ 建設本部安全品質環境部品質環境課 ⇒ 支店安全品質環境部品質環境課 ⇒ 各作業所</p>		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	がれき類 混合廃棄物
	排 出 量	2901.0 t 114.0 t
	(これまでに実施した取組) 現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には再資源化施設の活用に務めた	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	がれき類 混合廃棄物
	排 出 量	2901.0 t 114.0 t
	(今後実施する予定の取組) 今後現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には引き続き再資源化施設の活用に務める予定	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラはそれぞれの現場に、専用のコンテナを設置し再資源化施設の活用に勤めています	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後再資源化の効率向上に努めるため、廃プラの発生現場での分別向上に努める予定。	

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合廃棄物
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で再生利用をしていない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合廃棄物
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後も自社で再生利用する予定はない		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合廃棄物
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組) これまで自社で中間処理をしていない			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合廃棄物
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組) 今後も自社で中間処理をする予定はない			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合廃棄物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合廃棄物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分の予定はない		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合廃棄物
	全処理委託量	2901.0 t	114.0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	2901.0 t	114.0 t
	再生利用業者への処理委託量	2901.0 t	114.0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
(これまでに実施した取組) 再生利用できるものは全て再生利用が出来る委託業者に委託している			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	混合廃棄物
	全処理委託量	2901.0 t	114.0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	2901.0 t	114.0 t
	再生利用業者への 処理委託量	2901.0 t	114.0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
	<p>(今後実施する予定の取組) 今後現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には再資源化施設の活用に務める予定。</p>		
※事務処理欄			

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
<p>(管理体制図) 担当専務 ⇒ 経営会議 ⇒ 建設本部安全品質環境部品質環境課 ⇒ 支店安全品質環境部品質環境課 ⇒ 各作業所</p>			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラ
	排 出 量	660.0 t	33.4 t
	(これまでに実施した取組) 現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には再資源化施設の活用に務めた		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラ
	排 出 量	660.0 t	33.4 t
	(今後実施する予定の取組) 今後現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には引き続き再資源化施設の活用に務める予定		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラはそれぞれの現場に、専用のコンテナを設置し再資源化施設の活用に勤めています		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後再資源化の効率向上に努めるため、廃プラの発生現場での分別向上に努める予定。		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラ
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で再生利用をしていない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラ
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後も自社で再生利用する予定はない		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラ
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で中間処理をしていない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラ
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後も自社で中間処理をする予定はない		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラ
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラ
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分の予定はない		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラ
	全処理委託量	660.0 t	33.4 t
	優良認定処理業者への処理委託量	660.0 t	33.4 t
	再生利用業者への処理委託量	660.0 t	33.4 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
(これまでに実施した取組) 再生利用できるものは全て再生利用が出来る委託業者に委託している			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラ
	全処理委託量	660.0 t	33.4 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	660.0 t	33.4 t
	再生利用業者への 処理委託量	660.0 t	33.4 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には再資源化施設の活用に務める。</p>			
※事務処理欄			

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
<p>(管理体制図) 担当専務 ⇒ 経営会議 ⇒ 建設本部安全品質環境部品質環境課 ⇒ 支店安全品質環境部品質環境課 ⇒ 各作業所</p>		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	木くず 金属くず
	排 出 量	287.7 t 24.8 t
	(これまでに実施した取組) 現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には再資源化施設の活用に務めた	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	木くず 金属くず
	排 出 量	287.7 t 24.8 t
	(今後実施する予定の取組) 今後現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には引き続き再資源化施設の活用に務める予定	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラはそれぞれの現場に、専用のコンテナを設置し再資源化施設の活用に勤めています	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後再資源化の効率向上に努めるため、廃プラの発生現場での分別向上に努める予定。	

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	金属くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で再生利用をしていない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	金属くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後も自社で再生利用する予定はない		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	金属くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組) これまで自社で中間処理をしていない			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	金属くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組) 今後も自社で中間処理をする予定はない			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分の予定はない		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	金属くず
	全処理委託量	287.7 t	24.8 t
	優良認定処理業者への処理委託量	287.7 t	24.8 t
	再生利用業者への処理委託量	287.7 t	24.8 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
(これまでに実施した取組) 再生利用できるものは全て再生利用が出来る委託業者に委託している			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	金属くず
	全処理委託量	287.7 t	24.8 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	287.7 t	24.8 t
	再生利用業者への 処理委託量	287.7 t	24.8 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
	<p>(今後実施する予定の取組) 今後現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、木くず、金属屑排出の際には再資源化施設の活用を務める。</p>		
※事務処理欄			

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
<p>(管理体制図) 担当専務 ⇒ 経営会議 ⇒ 建設本部安全品質環境部品質環境課 ⇒ 支店安全品質環境部品質環境課 ⇒ 各作業所</p>		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	紙くず ガラス陶器屑
	排 出 量	15.5 t 156.1 t
	(これまでに実施した取組) 現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には再資源化施設の活用に務めた	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	紙くず ガラス陶器屑
	排 出 量	15.5 t 156.1 t
	(今後実施する予定の取組) 今後現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には引き続き再資源化施設の活用に務める予定	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラはそれぞれの現場に、専用のコンテナを設置し再資源化施設の活用に勤めています	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後再資源化の効率向上に努めるため、紙くず、ガラス陶器屑の発生現場での分別向上に努める予定。	

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	ガラス陶器屑
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で再生利用をしていない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	ガラス陶器屑
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後も自社で再生利用する予定はない		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	ガラス陶器屑
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で中間処理をしていない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	ガラス陶器屑
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後も自社で中間処理をする予定はない		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	ガラス陶器屑
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	ガラス陶器屑
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分の予定はない		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	ガラス陶器屑
	全処理委託量	15.5 t	156.1 t
	優良認定処理業者への処理委託量	15.5 t	156.1 t
	再生利用業者への処理委託量	15.5 t	156.1 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
(これまでに実施した取組) 再生利用できるものは全て再生利用が出来る委託業者に委託している			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	ガラス陶器屑
	全処理委託量	15.5 t	156.1 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	15.5 t	156.1 t
	再生利用業者への 処理委託量	15.5 t	156.1 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
	<p>(今後実施する予定の取組) 今後現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には再資源化施設の活用に務める。</p>		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 担当専務 ⇒ 経営会議 ⇒ 建設本部安全品質環境部品質環境課 ⇒ 支店安全品質環境部品質環境課 ⇒ 各作業所			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度 (2022 年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	繊維屑	
	排出量	0.5 t	t
	(これまでに実施した取組) 現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には再資源化施設の活用に務めた		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	繊維屑	
	排出量	0.5 t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には引き続き再資源化施設の活用に務める予定		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラはそれぞれの現場に、専用のコンテナを設置し再資源化施設の活用に勤めています		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後再資源化の効率向上に努めるため、紙くず、ガラス陶器屑の発生現場での分別向上に努める予定。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	繊維屑	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で再生利用をしていない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	繊維屑	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後も自社で再生利用する予定はない		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	繊維屑	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で中間処理をしていない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	繊維屑	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後も自社で中間処理をする予定はない		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	繊維屑	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	繊維屑	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分の予定はない		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	繊維屑	
	全処理委託量	0.5 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	0.5 t	t
	再生利用業者への処理委託量	0.5 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
(これまでに実施した取組) 再生利用できるものは全て再生利用が出来る委託業者に委託している			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	繊維屑	
	全処理委託量	0.5 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.5 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	0.5 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後現場内で発生した再資源の積極活用に勤め、排出の際には再資源 化施設の活用に務める。		
※事務処理欄			